

授業科目	看護学概論	単位数	1	時間数	30		
担当者名	八城 恵	実務経験	臨床看護実践・ 教育・看護管理	学年	1	開講学期	1
科目目標	看護を志す初学者として、看護とは何かを学び、看護の対象の理解を深めるとともに、看護職者が実践する看護とは、どのような活動なのか、その機能と役割について学ぶ						
授業計画	授業内容		授業内容				
1.	講義	看護とは					
2・3.	講義・グループワーク・発表	看護のイメージ、理想の看護師像					
4.	講義	看護の歴史と変遷（～中世まで）					
5.	講義・DVD 視聴	看護の歴史と変遷（中世以降）					
6.	講義・DVD 視聴	看護理論 ナイチンゲール、ヘンダーソン他					
7・8.	グループワーク・発表	ヘンダーソン 看護の基本となるもの（14 のニード）について					
9.	講義	看護の対象の理解 1) 人間のこころとからだ 2) 生活者としての人間					
10.	講義	健康のとらえ方 1) 健康とはなにか 2) 健康な状態、健康でない状態					
11・12.	講義 グループワーク・発表	国民の健康状態と生活 1) 国民の健康の全体像について 2) 人々の生活と健康に関する統計データ					
13・14.	講義	看護の提供の仕組み 1) サービスとしての看護と看護サービス提供の場 2) 医療安全と医療の質保証 3) 広がる看護の活動領域 4) 看護の倫理					
15.	まとめ、筆記試験（1 時間含む）						
教科書	系統別看護学講座 専門分野 看護学概論（医学書院） 看護覚え書 -看護であること看護でないこと-（現代社） 看護の基本となるもの（日本看護協会出版社）						
参考書	国民衛生の動向（厚生統計出版会） 系統別看護学講座 専門分野 成人看護概論・老年看護概論（医学書院） DVD：看護理論シリーズ、他						
評価方法	筆記試験（70%）、演習参加度（10%）、課題レポート・演習成果（20%）で総合評価						
備考							

授業科目	看護技術論	単位数	1	時間数	15		
担当者名	小田川 良子	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	看護技術を学ぶ必要性について理解し、看護をするうえで欠かせない人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を修得する						
授業計画	授業方法	授業内容					
1.	講義	技術とは 看護技術の特徴 看護技術の範囲					
2.	講義	看護技術を適切に実践するための要素 看護技術の発展と修得のために					
3.	講義	コミュニケーションの意義と目的 1) コミュニケーションとは 2) 看護・医療におけるコミュニケーション					
4.	講義・グループワーク	コミュニケーションの構成要素と成立過程 1) コミュニケーション手段 2) 構成要素と成立過程 3) ミスコミュニケーション 4) 看護職としてのコミュニケーション能力向上 5) プロセスレコード					
5.	講義・グループワーク	関係構築のためのコミュニケーション 1) 接近的コミュニケーション 2) 接近的行動と非接近的行動					
6.	講義・グループワーク	効果的なコミュニケーションの実際 1) 傾聴の技術 2) 情報収集の技術 3) 説明の技術 4) アサーティブネス					
7.	講義	コミュニケーション障害のある人への対応					
8.	筆記試験						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)						
参考書	看護コミュニケーション基礎看護から学ぶスキルとトレーニング第2版 (医学書院)						
評価方法	筆記試験 (90%)、授業態度 (10%) で総合評価						
備考							

授業科目	看護診断と看護過程	単位数	1	時間数	30		
担当者名	内村 由美子	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	2
科目目標	対象の持つ健康上の問題を明らかにして、その健康問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する						
授業計画	授業方法	授業内容					
1. 2.	講義	看護の基盤となる考え方					
3.	講義	1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) リフレクション 4) 問題志向型システム 5) 臨床判断 看護モデルとアセスメントの枠組み ゴードンの11の機能的健康パターン他					
4.	講義・DVD視聴	情報とは、情報収集・看護過程演習の事例提示（脳梗塞）					
5.	グループワーク	事例の情報のクラスタリング					
6.	講義・グループワーク	アセスメントとは、事例のアセスメント					
7.	講義	看護診断：1) 看護診断の種類（問題焦点型、リスク型、ヘルスプロモーション型、シンドローム型） 2) 共同問題					
8.	グループワーク	事例の看護診断、問題の明確化（関連図）、事例の関連図作成					
9. 10.	講義・グループワーク	看護計画： 1) 目標・成果・成果指標 2) 介入計画（O-P、C-P、E-P）					
11. 12.	講義・グループワーク	事例の看護計画の立案					
13.	講義・演習	実施・評価：1) SOAP形式 2) 看護計画の評価 看護計画の実施・評価（SOAP記録）					
14.	講義	医療における記録					
15.	試験	まとめ、筆記試験（1時間含む）					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護がみえる vol.4 看護過程（メディックメディア）						
参考書	系統看護学講座 専門分野 脳・神経（医学書院） 看護診断ハンドブック（医学書院） NANDA-I 看護診断 定義と分類（医学書院） 疾患別看護過程（医学書院） 症状別看護過程（医学書院） 臨床検査データブック（医学書院）						
評価方法	筆記試験（70%）、演習参加度（10%）、課題・演習成果（20%）で総合評価						
備考	紙上事例を用いて看護過程と看護診断を学習します。						

授業科目	食事と排泄の援助技術			単位数	1	時間数	30
担当者名	内村 由美子	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	人間にとって「食べる」「出す」の営み(行動)が適切に行えることの意義を理解し、最も自然で効果的な方法で行えるための援助方法について学ぶ 同時に障害がある場合の援助や処置についても学ぶ						
授業計画	授業方法		授業内容				
1.	講義	食事援助の基礎知識 1) 食事の意義 2) 食べるために必要な機能					
2.	講義	摂食能力・栄養状態のアセスメントと管理					
3.	講義・DVD 視聴	食事援助					
4.	演習	食事動作が自力ではできない人の援助の実際					
5.	講義	非経口栄養法 1) 経管栄養法・経静脈栄養法 2) 経鼻経管栄養法の実際					
6.	演習	経鼻経管栄養法					
7.	講義	排泄の基礎知識 1) 排泄の意義 2) 排尿・排便のメカニズム 3) 排尿・排便のアセスメント					
8.	講義・演習	自然排尿および自然排便の介助の実際 (トイレ、ポータブルトイレ)					
9.	講義・演習	床上排泄援助(尿器、便器)					
10・11.	講義・演習	おむつによる排泄援助、陰部洗浄					
12.	講義	排泄障害の種類・要因と援助					
13.	演習	浣腸、摘便					
14.	演習	導尿(一時的・持続的)、膀胱留置カテーテルの管理					
15.	まとめ、筆記試験(1時間含む)						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)						
参考書	系統看護学講座 専門分野 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 腎・泌尿器 (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院) 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)						
評価方法	筆記試験(100%)で評価						
備考							

授業科目	フィジカルアセスメント			単位数	1	時間数	30
担当者名	石原 聡子	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	患者を正確に診るために必要な身体査定法について、科学的根拠に基づいて習得する						
授業計画・授業内容							
1.	講義	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント					
2. 3.	講義	正しいバイタルサイン測定の方法と留意点 (体温、呼吸、血圧、脈拍)					
4.	講義・演習	血圧測定の実習					
5. 6.	演習	バイタルサイン測定の実際 (体温・呼吸・脈拍・SpO <sub>2</sub> ・血圧)					
7.	演習	技術チェック：バイタルサイン測定					
8.	講義	呼吸器系のフィジカルアセスメント					
9.	演習	呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際					
10.	講義	循環器系のフィジカルアセスメント					
11.	演習	循環器系のフィジカルアセスメントの実際					
12.	講義	乳房・腋窩、腹部のフィジカルアセスメント					
13.	演習	腹部のフィジカルアセスメントの実際					
14.	講義	神経系のフィジカルアセスメント 頭頸部と感覚器 (眼・鼻・口) のフィジカルアセスメント					
15.	講義	筋・骨格系のフィジカルアセスメント 心理・社会状態のアセスメント					
16.	試験						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)						
参考書	看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント (メディックメディア) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 (医学書院)						
評価方法	筆記試験 (70%)、演習参加度 (10%)、課題レポート (20%) で総合評価						
備考							

授業科目	呼吸・循環調整と生体機能のモニタリング			単位数	1	時間数	30
担当者名	内村 由美子	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	2	開講学期	1-2
科目目標	生命活動を支える呼吸・循環・体温調整および生体機能のモニタリングの技術を理解する						
授業計画	授業方法	授業内容					
1.	講義	呼吸管理の基礎知識、呼吸困難とアセスメント					
2.	講義	酸素療法（酸素吸入療法） 1）酸素供給システムと酸素流量計      2）酸素投与器具とその特徴 3）中央配管法と酸素ボンベ					
3.	演習	酸素療法の実際 1）中央配管法      2）酸素ボンベ					
4.	講義、演習	排痰ケア 1）体位ドレナージ      2）咳嗽介助、ハフィング 3）吸引（一時的吸引：口腔・鼻腔・気管内吸引）					
5.6.	演習	口腔・鼻腔・気管内吸引の実際					
7.	講義、演習	吸入					
8.	講義、演習	胸腔ドレナージのしくみと管理					
9.	講義、演習	人工呼吸療法 1）換気方法      2）人工呼吸器作動中の管理					
10.	講義	体温管理の技術 1）発熱時の援助      2）うつ熱時の援助（熱中症） 3）低体温時の援助					
11.	講義、演習	末梢循環促進ケア（弾性ストッキング他）					
12.	講義	救命救急処置技術、止血法					
13.14.	演習	一次救命処置（BLS）					
15.	まとめ、試験	まとめ、筆記試験					
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ （医学書院）						
参考書	系統看護学講座 別巻 救急看護学 （医学書院） 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護 （医学書院） 基礎・臨床看護技術 （医学書院） 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 （メディックメディア）						
評価方法	筆記試験（100%）で評価						
備考							



授業科目	看護研究	単位数	1	時間数		15	
担当者名	濱田 美由紀	実務経験	教育	学年	2	開講学期	2
科目目標	看護研究の意義、研究の倫理、ならびに研究方法論についての理解を深め、物事について深く考えたり、調べたりすることの必要性を理解することで探求心を養い、研究的態度を身に付ける						
授業計画	授業方法		授業内容				
1.	講義	看護研究とは 看護研究の始め方 リサーチクエスションを立てる 研究における倫理的配慮					
2.	講義	研究の設計と方法の選択 質的研究デザイン					
3.	講義	量研究デザイン、実験研究、システマティックレビュー、他					
4.	講義	データの収集 データの分析					
5.	講義・演習	情報の探索と吟味 文献探索の方法 文献レビューとその方法					
6.	講義・個人ワーク	研究計画書の作成					
7.	講義	研究を伝える 研究結果のまとめ方論文作成・学会発表					
8.	試験	試験					
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)						
参考書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 (照林社)						
評価方法	課題レポート (100%)						
備考	演習・個人ワークは情報科学室を使用します。各自でUSB を準備してください。						



授業科目	看護研究演習	単位数	1	時間数	15		
担当者名	濱田 美由紀	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	3	開講学期	1
科目目標	3年次前期の病棟実習において受け持った事例について看護実践をケーススタディとして卒業論文としてまとめ、看護を追究していく姿勢を養い、自己の看護観を高める						
授業計画	授業方法	授業内容					
1.	講義（45分）	看護研究演習オリエンテーション ケーススタディの意義と方法					
2.	講義・個人ワーク	研究計画書作成 文献探索					
3.	講義・個人ワーク	実習の学びとデータ収集					
4.	講義・個人ワーク	論文作成について 結果の示し方と考察の書き方					
5.	講義・個人ワーク	論文作成について 推敲、論文の首尾一貫性 抄録の作成					
6.	講義・個人ワーク	研究の発表 口演発表におけるプレゼンテーション方法					
7.	講義・個人ワーク	他者のケーススタディの評価と学び					
8.	講義	論文の修正および最終論文完成					
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究（医学書院）						
参考書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社）						
評価方法	評価表に則り、論文・抄録の内容、発表、態度（論文完成までの取り組み、提出状況）などで総合的に評価						
備考	論文指導は、複数の講師で行います。						